

# 事例紹介

**日本版NCAA創設に向けた学産官連携協議会  
第1回マネジメントWG**

2017年10月23日(月)9時～12時

## 参考資料 -1 NCAAの歴史

米国では、学生スポーツの良さを大学側が認識しつつも、学生の死亡事故の多さを受けて対策を講じるために、大学が集まり安全基準や人格形成のプログラム規程を策定して今の姿がある。

### NCAA創設の経緯

NCAA 創設前	<ul style="list-style-type: none"><li>● 1890年から1905年の間で330人が高校、大学、レクリエーションすべてを含めた<u>アメフトによって死亡</u></li><li>● 1905年だけで<u>大学生3人が死亡、88人が重傷</u>、以前のケガがもとで元選手15人が死亡</li></ul>
NCAA 創設	<ul style="list-style-type: none"><li>● 1905年10月にルーズベルト大統領は当時の「3強」であったハーバード大学、エール大学、プリンストン大学の関係者をホワイトハウスに招いて改革を求めた</li><li>● 大統領の働きかけを受けて<u>3大学が中心になって、規則委員会(FRC)を設立し</u>、12月には海軍士官学校、コーネル大学、ペンシルベニア大学も参加</li><li>● 1905年末の<u>総会には68校が集まり、IAAUS(NCAAの原型)発足が提案され1906年10月に設立総会を開いた。39校が参加を表明し28校が出席</u></li><li>● IAAUSは中小の大学が中心でFRCのメンバーからは距離を置かれていたが、<u>1910年にアメフト以外のスポーツも管理する全米学生体育協会(NCAA)と改称した</u></li><li>● 1911年にはシカゴ大学とハーバード大学などFRCグループの有力校も参加し加盟校数は95となり、<u>1915年までにエール大学とプリンストン大学も加入して両者の統一がなされた</u></li></ul>

出所：現代スポーツ評論36「アメリカの大学スポーツNCAAから何を学ぶか(宮田由紀夫)」

## 参考資料 -2 NCAAのミッション

米国NCAAはミッションとして、「ACADEMICS」、「WELL-BEING」、「FAIRNESS」の3つを掲げている。

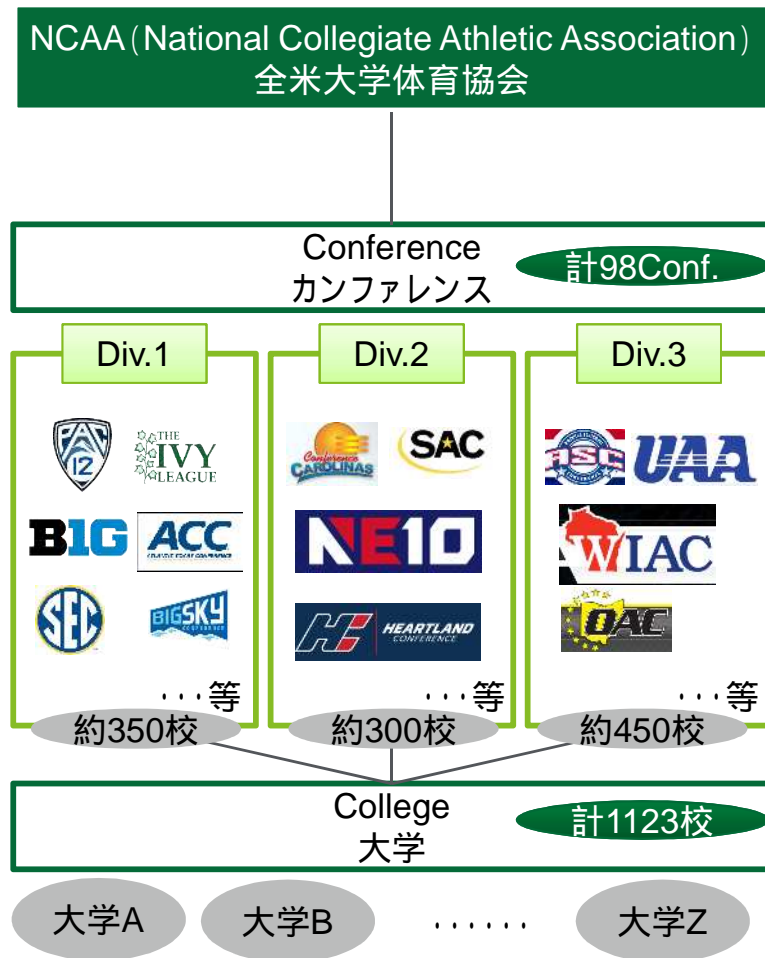
### NCAAの3つのミッション



## 参考資料 -3 NCAAの体制

米国NCAAは大学及び大学の集合体であるカンファレンスを統率する組織です。カンファレンスでは各条件に基づきディビジョンが分かれており、カンファレンス毎に自治を行い、各大学ではAD局を設置し大学内の統治を行っている。

### NCAA構造



■ **加盟1123校及び98カンファレンスの統治を行う「非課税非営利団体」**  
 文武両道のお手本になる事・社会貢献を牽引する等7つのコアバリューを掲げ、大学スポーツの運営、学生アスリートの教育・育成の支援をする。  
 意思決定は様々な「委員(コミッティ)」でなされている。委員は各大学の関係者・NCAA職員等で構成されており、ルールや罰則などすべての意思決定を行う。

■ **奨学金や各種制限の違いでグループを作り運営する「カンファレンス制度」**  
 経営状態、州立・私立、土地や設備等各大学での状況は異なるため、全て同じ条件でNCAAの規程するルールを遵守するわけではない。大学の規模や種目数、各種制限や奨学金の差でディビジョンを3つに分けている。原則として大学のディビジョン移動はない。各ディビジョンでは、5~15校程度で構成されるカンファレンスという地域リーグが存在しており、大会等は当該カンファレンス内で行われる。カンファレンス内でのリーグ戦は勿論、年に1度NCAAトーナメントと呼ばれる全加盟大学(正確にはセレクション)でのトーナメントも存在する。

➢ **柔軟なリーグ編成及び競技選択**

NCAAに加盟しているリーグや大学は、すべての競技に参加しているわけではなく、地域特色等を優先して競技選択している。例えば沿岸部のカンファレンスでは冬スポーツ(米国ではスポーツのシーズン制を導入)は選択していない。大学の設備など経営状況とも密接に関係するため、場合によっては近隣のカンファレンスと共同で開催するなど柔軟な競技編成・大会運営を行っている。

■ **学内スポーツを統治する「Athletic Department(体育局)」(以下AD局)**  
 各大学内ではAD局が、独立採算の組織として存在している。学内のスポーツ施設の管理、運用は勿論、大学スポーツの方針なども策定する。NCAAやカンファレンスとも密に連携しルールの遵守管理や各競技のコーチ採用権利もAD局にある。

## 参考資料 -4 NCAAが実施する学生アスリートに対する支援

米国NCAAでは、学生スポーツを通じた学生の学生生活の充実を提供するため、人格形成支援・学業支援・キャリア支援・資金支援・保険制度の提供などを実施し、学生の安全確保や文武両道を達成できる仕組みづくりを行っている。

### NCAAの実施する支援内容(概要)

#### Academic Services

- **単位数、GPAやARPによる成績管理**  
個人:基準を超えないと部活へ参加不可能  
チーム:チームとして成績が悪いと試合等への参加制限  
大学:NCAAからの資金援助は学校全体のアスリートの成績に連動(2019~導入予定)
- **最低限の基準を設けて、実行するのは大学**  
上記の様(正確にはディビジョン毎異なる。)にNCAAが定めた基準があるが、それを下回らなければ、大学側でより強固な制限を設ける場合がある。また、大学によっては独自に**チューター制度**を設けて、学生アスリート向けの補修やカウンセリングを行っている。



#### Wellness & Insurance

- **スポーツ科学研究による安全の促進**  
脳震盪、過度の傷害、薬物検査、精神衛生、性的暴行などに関する研究と訓練を通じて健康と安全を促進する活動を行っている
- **スポーツ保険の提供**  
スポーツをしたり練習している間に致命的な怪我を経験したすべての大学アスリートを対象とした保険契約を締結しており、生涯保険金額で最大2,000万ドルを提供する。特に首の怪我や脳震盪などアメフトに代表される怪我を重視
- **栄養食の提供**  
学生選手の栄養ニーズをサポートするため、大学から学生アスリートへの食事の提供を支援。一部の学校では、栄養士やその他の保健医療従事者も派遣される



Great  
Opportunities  
And  
Experience

#### Financial Assistance

- **奨学金の提供**  
毎年15万人以上の学生アスリートに29億ドル以上の運動奨学金を提供し、また、8000万ドル以上を学生支援基金に提供している



#### Personal & Professional Development

- **リーダー育成及び人間形成プログラムの提供**  
リーダーシップフォーラムやスポーツフォーラムのような、リーダーや人間形成を学ぶ教育訓練プログラムを提供
- **キャリア支援**  
アフター・ザ・ゲーム・キャリア・センターにおいてキャリア支援や求人マッチングを実施



## 参考資料 -5 NCAAのディビジョン別の概要

ディビジョン I に所属する大学数が最も多く、学生に占めるアスリートの割合が最も高い。各ディビジョンにおける学校毎の平均チーム数は15～19チームとなっている。

### 各ディビジョンの概要

	DIVISION I	DIVISION II	DIVISION III
加盟校	346校	307校	439校
学生アスリートのディビジョン別割合	37%	24%	39%
学校毎の平均チーム数	19チーム	15チーム	18チーム
学生に占めるアスリートの割合	25人に1人	13人に1人	6人に1人
入学者の中央値	9,970人	2,524人	1,790人
アスリート奨学金制度*	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 複数年の奨学金制度が利用可</li> <li>• 所属学生の53%が利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一部の奨学金制度が利用可</li> <li>• 所属学生の56%が利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アスリート奨学金制度なし</li> <li>• 所属学生の75%がアスリート奨学金以外の援助を受けている</li> </ul>

\*アスリート奨学金制度は、アスリート学生のために学費、寮や食事代、その他教科書代や交通費などの雑費を含めた大学に通うために必要な費用を補填する目的で設立された奨学金制度

# 参考資料 -6 NCAAのガバナンス体制

各ディビジョンはそれぞれの組織における課題・問題に対処するが、大学スポーツ全般に係る課題・問題に対してはNCAAの理事会や横断型委員会が主に対応している。

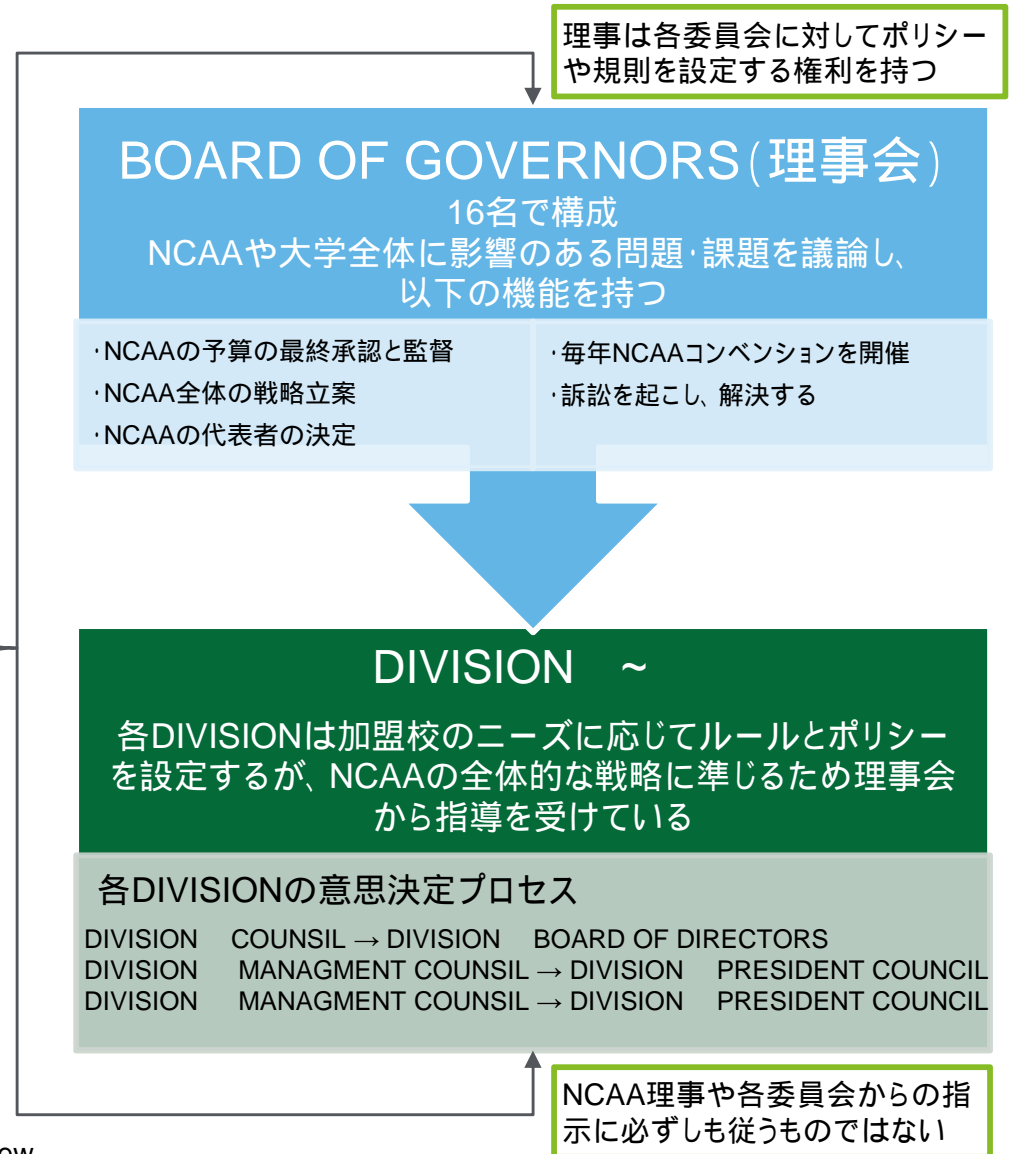
## NCAAのディビジョン横断型組織

### ディビジョン横断型委員会

競技のセーフガードとスポーツの医療面に関する委員会	優秀者や名誉に関する委員会	少数民族及び利益に関する委員会
22名の委員 3名が医療関係者	9名の委員 2名の市民代表者	18名の委員 3名が学生アスリート委員

オリンピックスポーツ委員会との連携委員会	大学院奨学金委員	調査委員
14名の委員 3名が学生アスリート委員	7名の委員	10名の委員

スポーツマンシップと倫理的行為に係る委員会	ウォルターパイヤー奨学金委員会	女性アスリートに係る委員会
11名の委員 3名がアスリート学生委員	6名の委員	18名の委員 3名の学生アスリート委員



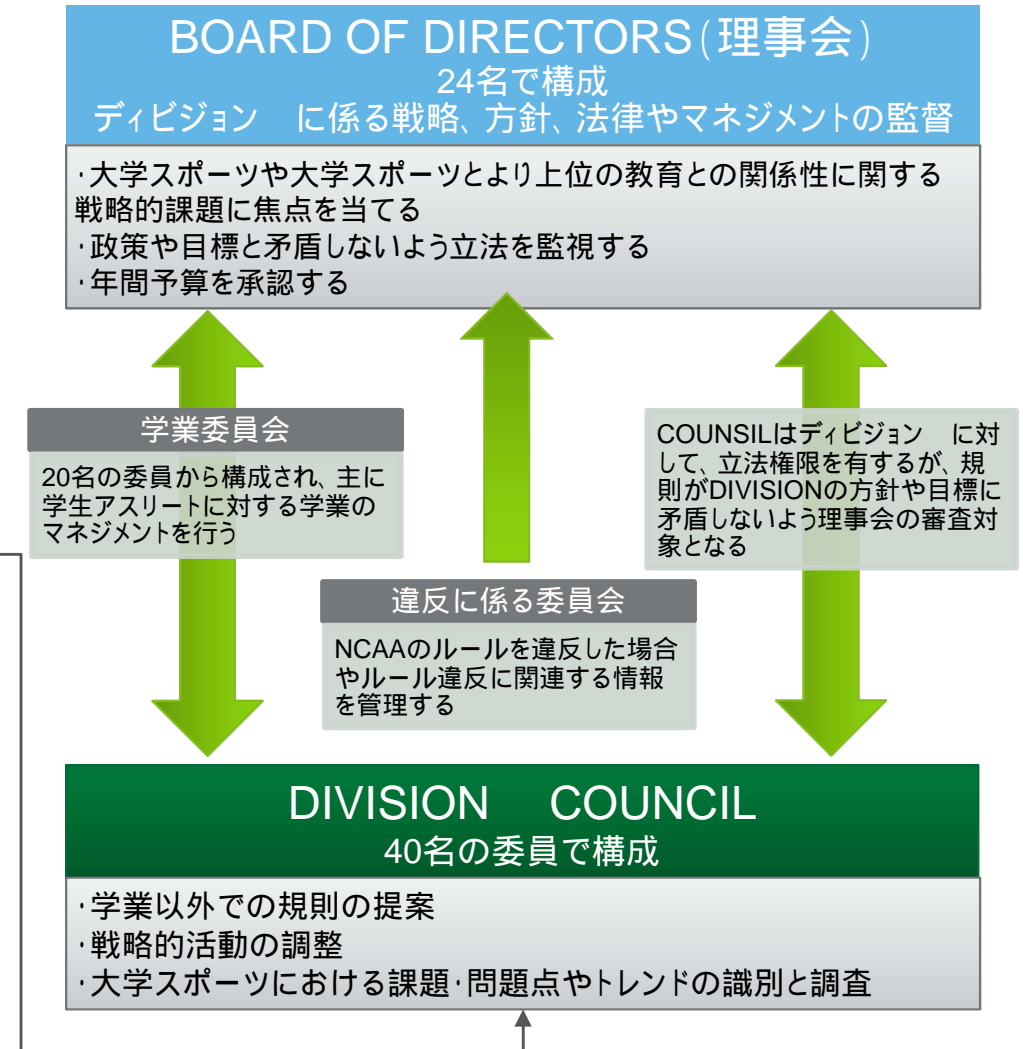
出所: NCAA Chancellors and Presidents Engagement Program Association Overview

# 参考資料 -7 NCAAのガバナンス体制

ガバナンス構造は各ディビジョンにより異なる。

## ディビジョン のガバナンス構造

学生アスリート選手権大会復権委員会 立法救済委員会	立法委員会	学生アスリートアドバイザー委員
DIVISION に係るその他委員会に属さない問題に従事	19名の委員 1名の学生アスリート委員	32名の学生アスリート委員
競争監視委員会	学生アスリート経験委員会	戦略的ビジョンと計画に係る委員会
19名の委員 1名が学生アスリート委員	10名の委員 1名が学生アスリート委員	10名の委員 1名が学生アスリート委員
女性バスケットボール監視委員会	男性バスケットボール監視委員会	女性バスケットボール監視委員会
12名の委員 1名がアスリート学生委員	12名の委員 1名がアスリート学生委員	12名の委員 1名がアスリート学生委員



出所: NCAA Chancellors and Presidents Engagement Program Association Overview



# 参考資料 -8 NCAAのガバナンス体制

ガバナンス構造は各ディビジョンにより異なる。

## ディビジョン のガバナンス構造

<b>メンバーシップ委員会</b>	<b>立法委員会</b>	<b>学生アスリートアドバイザー委員</b>
12名の委員 1名の学生アスリート委員	12名の委員 1名の学生アスリート委員	27名の学生アスリート委員

<b>立法救済委員会</b>	<b>学業要件委員会</b>	<b>違反に係る委員会</b>	<b>違反訴訟委員会</b>
5名の委員	10名の委員 1名が学生アスリート委員	7名の委員	5名の委員

<b>選手権大会委員会</b>	<b>学生アスリート選手権大会復権委員会</b>	<b>指名委員会</b>
12名の委員1名がアスリート学生委員	6名の委員 1名がアスリート学生委員	11名の委員

**PRESIDENTS COUNCIL (代表者協議会)**  
16名で構成  
ディビジョン に係る戦略、方針、法律やマネジメントの監督

- ディビジョン における戦略的課題と高等教育との関係
- ディビジョン における年間予算の承認
- NCAAのメンバーが検討するガバナンス体制からの立法案を提唱

**企画・財政委員会**  
予算のプライオリティに関する協議会への推薦、戦略案の審査  
7名の委員

**行政に係る委員会**  
代表者協議会に上程された問題・課題への対処  
5名の委員

MANAGEMENT COUNCILは各提案を審査し、代表者協議会に提出する前に推薦するかどうかを選択する

**MANAGEMENT COUNCIL**  
29名の委員

- ディビジョン と横断型委員会からの提案を調査
- ディビジョン における定款の判断
- 代表者協議会のアドバイザー業務を担う

# 参考資料 -9 NCAAのガバナンス体制

ガバナンス構造は各ディビジョンにより異なる。

## ディビジョン のガバナンス構造

財政援助委員会	メンバーシップ委員会	学生アスリートアドバイザー委員
12名の委員	10名の委員 1名の学生アスリート委員	22名の学生アスリート委員

違反委員会	戦略的企画・財政委員会	規律と解釈に係る委員会	違反訴訟委員会
5名の委員	13名の委員 1名が学生アスリート委員	8名の委員	5名の委員

選手権大会委員会	学生アスリート選手権大会復権委員会	指名委員会
9名の委員 1名がアスリート学生委員	6名の委員 1名がアスリート学生委員	8名の委員

**PRESIDENTS COUNCIL (代表者協議会)**  
18名で構成  
ディビジョン に係る戦略、方針、法律やマネジメントの監督

- ディビジョン における戦略的課題の設定
- ディビジョン における年間予算の承認
- NCAAのメンバーが検討するガバナンス体制からの立法案を提唱

行政に係る委員会  
行議会で提唱された問題・課題に関して行動する  
5名の委員

MANAGEMENT COUNCILは各提案を審査し、代表者評議会に提出する前に推薦するかどうかを選択する

**MANAGEMENT COUNCIL**  
21名の委員

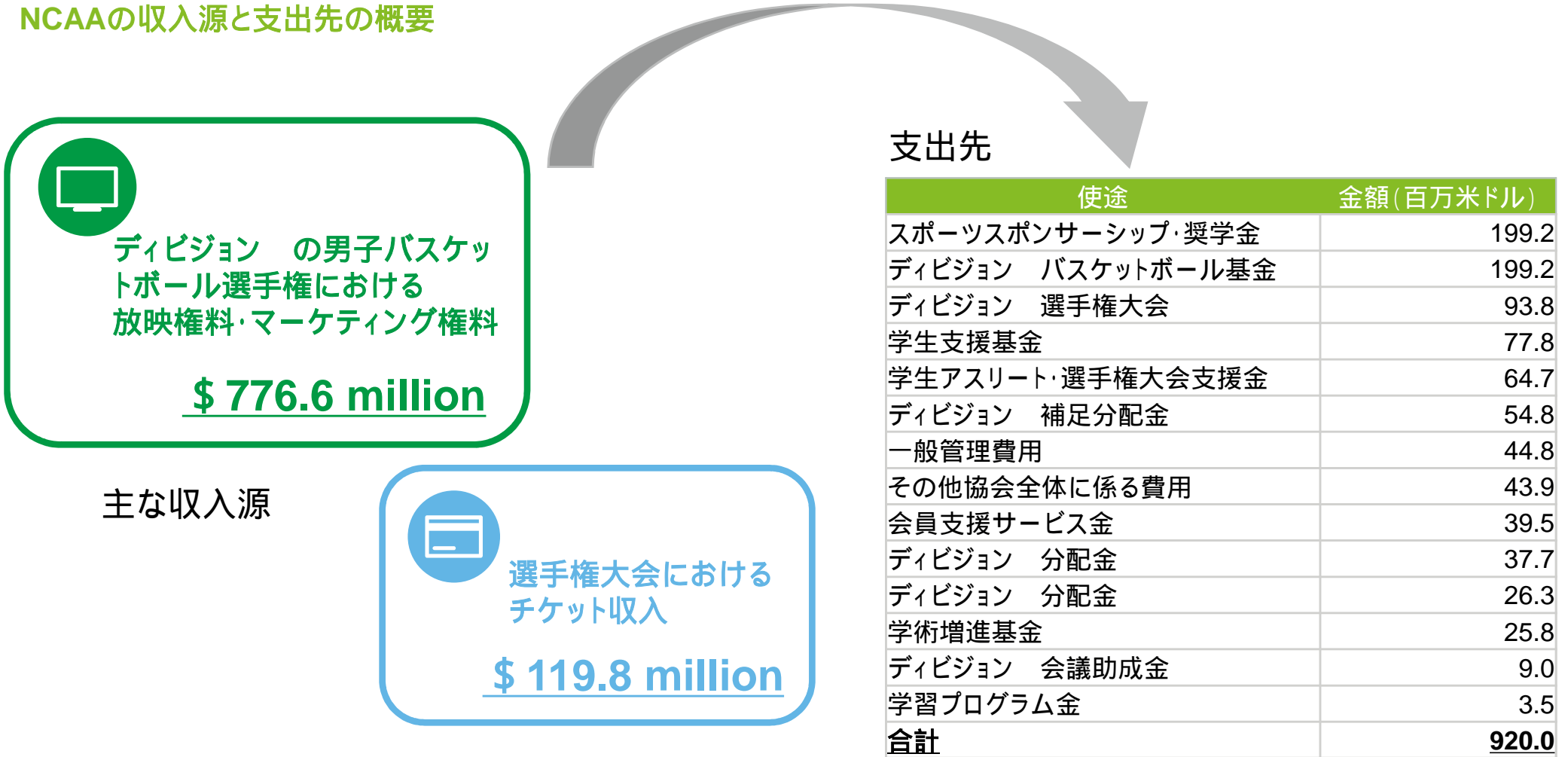
- ディビジョン における定款の判断
- 代表者評議会と理事会が採択した政策を実施
- 会員投票のための行政提案を支援

出所: NCAA Chancellors and Presidents Engagement Program Association Overview

# 参考資料 -10 NCAAの収支構造

NCAAの収入源の大半は男子のバスケットボール選手権の放映権・マーケティング権料と選手権のチケット収入が占めている。これら収入はNCAAに加盟する学校やカンファレンス、学生アスリートの支援のために使われている。

## NCAAの収入源と支出先の概要



## 参考資料 -1 BUCS (英国)のビジョンとテーマ

英国BUCSは「enhance the student experience through sport(スポーツを通じて学生により良い経験を積んでもらうこと)」をビジョンとして掲げ、3つのテーマを掲げている。

### BUCSの3つのテーマ

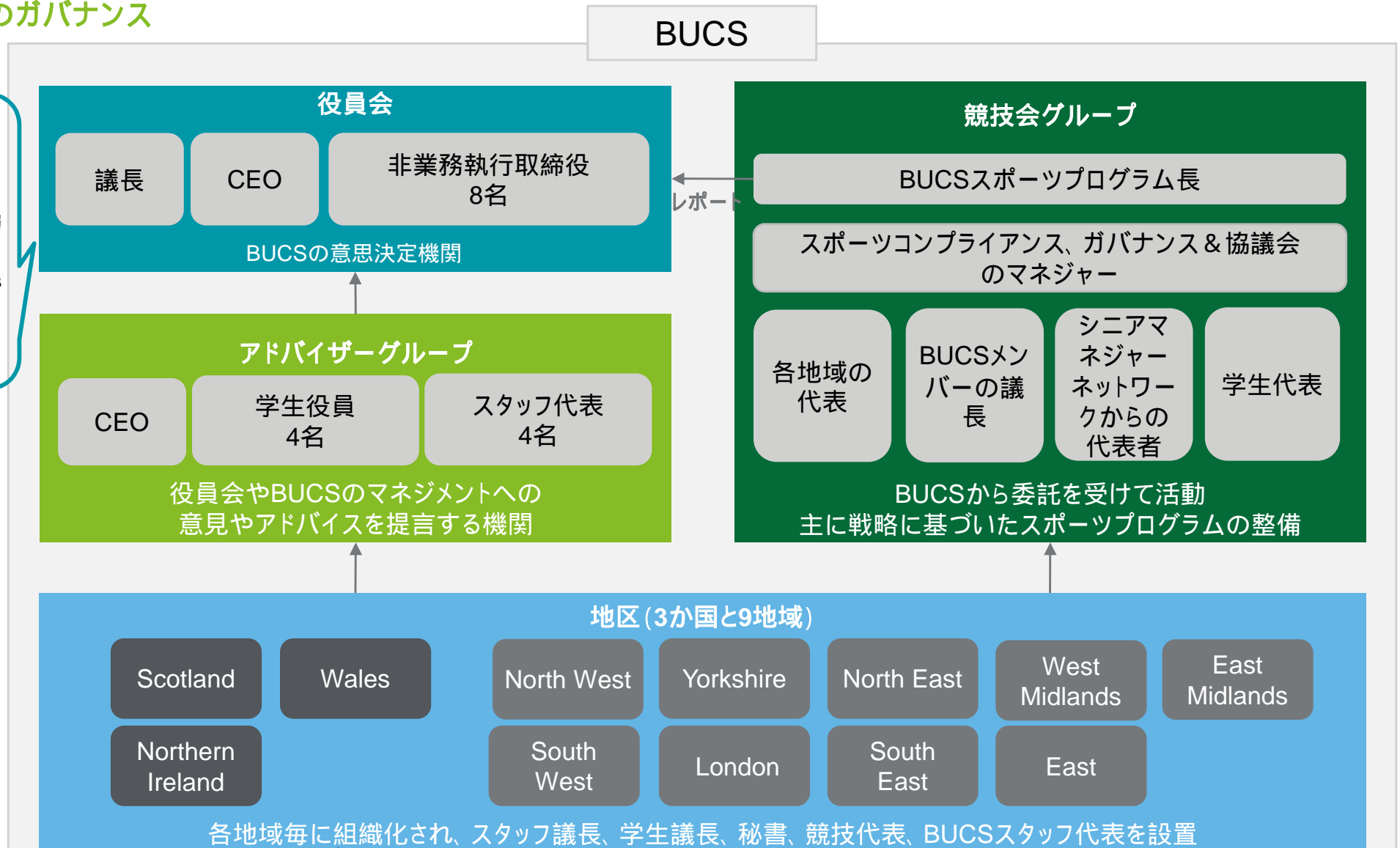


## 参考資料 -2 BUCS (英国) のガバナンス体制

BUCSは、役員会を中心に、実働部隊としてのアドバイザーグループ、競技会グループを設置。各地域でも組織を形成し、代表者が選出されている。

### BUCSのガバナンス

役員会の現体制  
 議長: Aberdeen 大学の学長  
 CEO: Coventry大学の学生サービス・スポーツ・健康・福祉局の副ディレクター  
 非業務執行取締役: 4人は大学関係者、3人は一般企業、1名はBUCSのGovernance & HR Manager



各地域毎に組織化され、スタッフ議長、学生議長、秘書、競技代表、BUCSスタッフ代表を設置

## 参考資料 -3 BUCS (英国) の収支構造

BUCSの収益の約63%は会費による収入であり、費用の約41%はBUCS組織の運営費である

### BUCSの収益構造(2013-2014実績)

Income < 収入 >	金額(ポンド)
Affiliation Fee < 会費 >	927,197
Individual Entries < 会費 >	706,982
Marketing and Sales < 物販 >	452,717
Team Entries < 会費 >	353,394
Grant – Sports Development < 助成金 >	172,618
Conference < 競技 >	136,444
International < 競技 >	133,898
その他	273,163
<b>合計</b>	<b>3,156,413</b>



Expenditure < 費用 >	金額(ポンド)
Staff Cost < 運営費 >	937,011
Sports Program < 競技 >	743,381
International < 競技 >	263,042
Nationals < 競技 >	217,990
Office Overheads < 運営費 >	188,813
Sports Development < 普及 >	185,515
Other Office Costs < 運営費 >	141,396
Conference < 競技 >	130,610
その他	285,452
<b>合計</b>	<b>3,093,210</b>

Net Surplus < 利益 >	金額(ポンド)
<b>差額</b>	<b>63,203</b>

- BUCSの収入は約4.4億円 (£3,156,413 × @140) であり、1,000億円程度の収入があるNCAAに比する極めて小さい。
- 収入の柱は、Affiliation Fee(加盟料)、Individual Entries(個人エントリー料)、Team Entries(チームエントリー料)といった「会費」であり、収入全体の約63%を占めている。
- Affiliation Feeは、設定した来期の予算につき、メンバーが合意した金額である。なお、Affiliation Feeは、一部はFull Memberが頭数で割った分を負担し、他の一部はFull Memberが参画割合に応じて負担する。それ以外で、Associate Membersは年間£50、Playing Entitiesは年間£500負担する規約となっている。

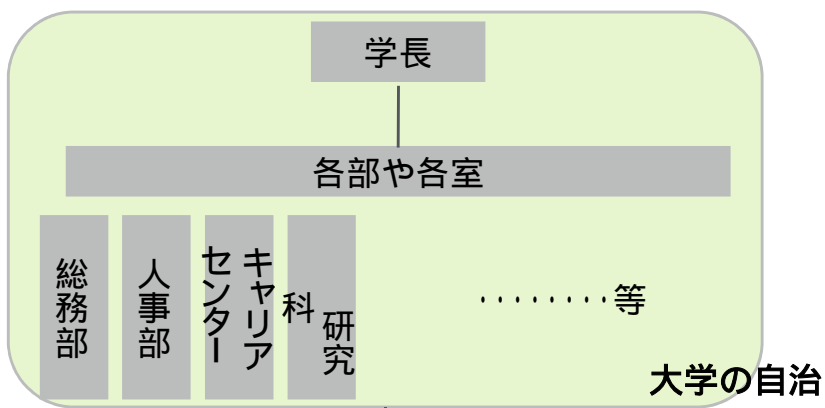
- BUCSの費用は約4.3億円 (£3,093,210 × @140円) であり、収入に応じた金額となっている。
- 費用全体に占める運営費の割合は、Staff Cost(人件費)、Office Overheads(事務所諸経費)、Other Office Costs(その他事務費)であり、全体の約41%を占める。
- また、Sports Programを含めると全体の約44%が競技関連費用となっている。

# 参考資料 -1 日本の大学及び体育会を取り巻く環境について

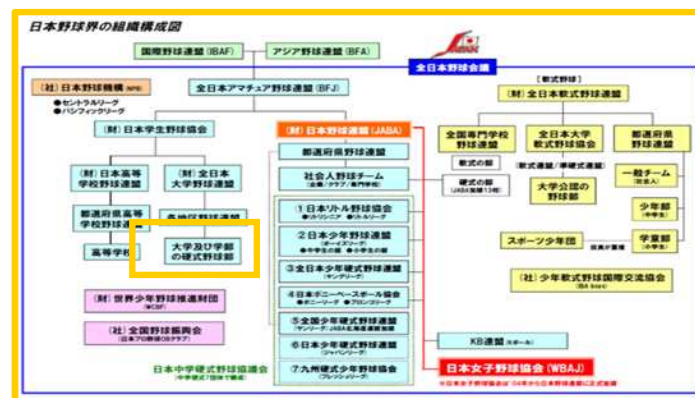
現状では、大学部活動は学生自治の「課外活動」と位置付けられており、多くの場合大学の管理下でない。また、各競技毎に学連・競技連がそれぞれの規程や統治をしていることが多い。

## 大学を取り巻く環境(モノ～組織体制等～)

大学における体育会の位置づけ(一例)



各部活と競技連盟等の位置づけ(一例)



## 参考資料 -2 大学部活動における大会の主催団体

大学部活動における主要大会は主に競技別の学生連盟主催となっているが、競技によってはNFが主催しているケースもある

### 大学部活動の競技別主要大会と主催団体(抜粋)

競技	主要大会(リーグ戦除く)	主催(共催)団体		
		学生連盟	国内競技連盟(NF)	その他
野球	全日本大学野球選手権大会	全日本大学野球連盟	-	読売新聞社
サッカー	全日本大学サッカー選手権大会	全日本大学サッカー連盟	-	日本サッカー協会
バスケット	全日本大学バスケットボール選手権大会	全日本大学バスケットボール連盟	日本バスケットボール協会	-
ラグビー	全国大学ラグビーフットボール選手権大会	-	日本ラグビーフットボール協会	HNK
アメフト	甲子園ボウル	-	日本アメリカンフットボール協会	毎日新聞社
テニス	全日本学生テニス選手権大会	全日本学生テニス連盟	日本テニス協会	-
卓球	全日本大学総合卓球選手権大会	日本学生卓球連盟		
陸上	東京箱根間往復大学駅伝競走(箱根駅伝)	関東学生陸上競技連盟	-	読売新聞社
陸上	日本学生陸上競技対校選手権大会	日本学生陸上競技連合	-	-
水泳	日本学生選手権水泳競技大会	-	日本水泳連盟	-
柔道	全日本学生柔道優勝大会	全日本学生柔道連盟	-	毎日新聞社

出所:各団体オフィシャルHP



# 参考資料 -1 第一回学産官連携協議会アンケート集計結果(平成29年9月28日)

---

## 概要

---

### 【実施日】

- ・平成29年9月28日(木)

### 【対象】

- ・第一回学産官連携協議会出席者(367名)
- ・有効回答数:240(学:94、産:84、官:5)

### 【方式】

- ・アンケート用紙への記入(原則として選択式)
- ・一部、自由回答欄あり

### 【内容】

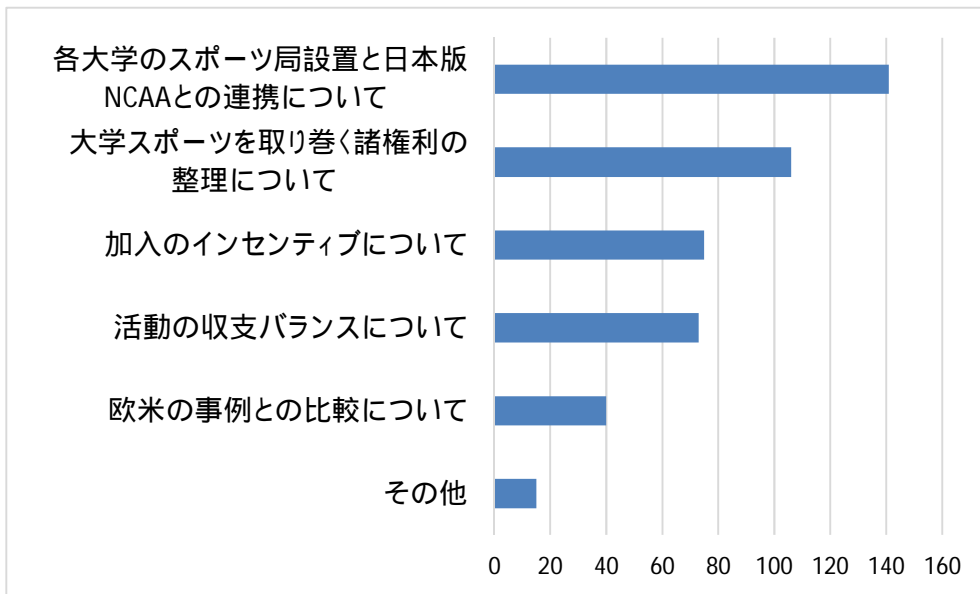
- ・学業充実WG(5問)、安全・安心WG(5問)、マネジメントWG(4問)の3分野に関する初期的な意識調査
- ・回答時間は約10分

## 参考資料 -2 第一回学産官連携協議会アンケート集計結果(平成29年9月28日)

「スポーツ局との連携」が最も興味関心が高く、次いで「諸権利の整理」、「加入のインセンティブ」の順となっている。

Q3-1

Q: マネジメントWGにて特に取り上げて欲しいテーマを以下の中から2つ挙げるとすると、どれになりますか？



【その他の内容(主なもの)】

- 各競技団体、学連との連携のあり方
- 大学スポーツのマーケティング・ビジネスモデル
- 会計明確化とガバナンス強化

Q3-2

Q: Q3-1で選択いただいたテーマを選んだ理由をご教示ください。

【 スポーツ局との連携(主なもの)】

- 大学ごとの温度差の違いをどう埋めるかがポイント
- マネジメント人材の不足への対応に期待
- 既存制度との兼ね合いが重要

【 諸権利の整理(主なもの)】

- 欧米の先進事例の導入と日本独自の仕組のバランスが重要
- 統一基準は必要だが、実務的には困難と考えられる
- 個別最適と全体最適をどのように担保するのか

【 加入のインセンティブ(主なもの)】

- 加入のインセンティブがないとそもそも加入しない
- 加入することでまずは安全安心を確保
- 早慶のインセンティブが少ないように感じる

【 収支バランス(主なもの)】

- 規模感とコストのバランスを明確にしたい
- マネジメント人材を確保するための資金が必要なため
- 既得権益の整理として持続可能な収益体制が重要だと考えるため

【 欧米事例比較(主なもの)】

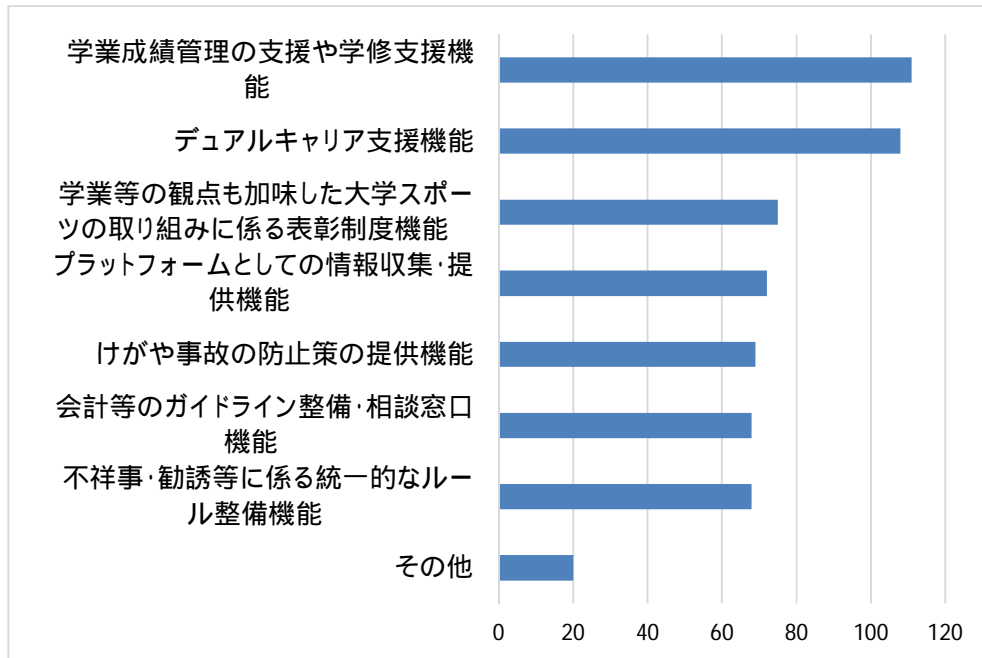
- 日本独自の事例も出てくるのか興味がある
- 先進的取り組みを導入していく必要がある
- 欧米の真似だけでは上手くいかないと考えられる

## 参考資料 -3 第一回学産官連携協議会アンケート集計結果(平成29年9月28日)

インセンティブ機能としては「学修支援機能」、「デュアルキャリア支援機能」、自立的機能としては「事務局機能」、「ルール整備機能」への期待が高いという結果となった。

Q3-3

Q: 学生アスリートに、大学部活動で活動する意義(充実感・達成感)をより感じてもらうために、日本版NCAAに持たせるべき機能は何だと思われますか？(複数回答可)

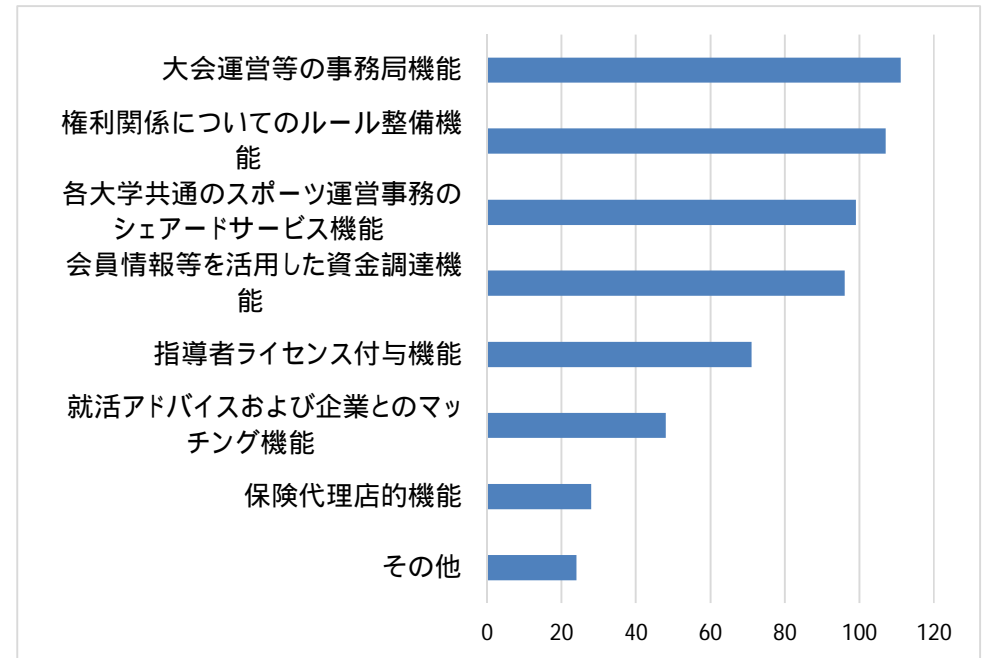


【その他の内容(主なもの)】

- 一番大事なのは安全性の確保→産業化は二の次
- 奨学金等の経済的支援機能
- ブランディング機能

Q3-4

Q: 自立的・安定的に日本版NCAAを運営するために持たせるべき機能は何だと思われますか？(複数回答可)



【その他の内容(主なもの)】

- 競技連盟も交えたマーケティングの体制・情報交換機能
- 大学の正課として部活動を持つことを徹底させる権限
- 各大学共通の学修支援プログラムの提供